



12月 

発行責任者  
西川 晃二

## 【校長室より】

### であることとすること（ふたたび）

今回の「校長室より」は、終業式で生徒に語った内容を一部改変して掲載させていただきます。ご家庭でお子様と話題にして頂ければ幸いです。

#### ○「ことばを大事にしよう」

皆さんにお願いがあります。それは「ことばを大事にしよう」ということです。古来日本では言葉には魂が宿るといふ「言魂（ことだま）」信仰があります。魂が宿るがゆえに、言葉はいったん発せられると、人にとって善に作用する場合も、悪に作用する場合があります。言葉は生き物です。発した本人が思いもよらぬ結果を招くことがあります。それを少しでも避けるために人は対面し、身振り手振り、抑揚をつけて伝えてきました。それでもうまくいかないことがあります。

今や、世はスマホ時代。メールでのやりとりが常識の世界になりつつあり、言葉はそんざいになり、正体不明化してきています。先日、TVで、クリスマスを迎える日本人の変遷が語られていました。戦後、クリスマスの普及しはじめは大人が楽しむ「大人の時代」、そしてアメリカホームTVドラマ「奥様は魔女」のブームで「家族の時代」、さらにバブル期の「恋人の時代」と変遷したというのです。さて、今はどんな時代だと思いますか？今は「一人の時代」だそうです。なぜならば一人で迎えても寂しくないというのです。なぜならばLINE、フェイスブック等のSNSがあるのだから、というのです。何か空恐ろしい時代になったものだと思います。今や高校現場で生徒指導の事案が生ずるところには必ずと言っていいほどスマホ等が関わっています。いじめ、おどし、しかと（無視）、つきまとい、などなどです。顔が見えない「ことば」に振り回され、果ては不登校、自殺などが日常的にマスコミを騒がしています。こういう時代だからこそ「ことばを大事に」と訴えたいのです。言葉過剰であってもいけないし、言葉足らずであっても誤解を生みます。なかなかやっかいなのが言葉です。しかし他者とつながるためには、言葉しかありません。それ故、丁寧に心を込めて「ことば」を紡ぎ出すことが大事なのです。

#### ○「であることとすること」

もう一つ、昨年も話したことがあります。2、3年の諸君は覚えておられますか。政治学者であり、思想家の丸山真男先生の「であることとすること」の話をしました。簡単にいえば「であること」であるためには不断に、絶えることなく、日常的に「すること」をしなければ、「であること」は保証されないということです。もっと砕いて言えば、金を貸した「債権者」は、不断に金を借りた「債務者」に対して返済を求めなければ「債権」を失うという法律の話でした。このことを、諸君に当てはめて言えば「誇りと自身」を持つ五高生であるがためには、「誇りと自信」を持てるような不断の、日常からの努力が必要であるということです。

体育祭で、そして五高祭で示した「誇りと自信」は日々の努力から生まれるのです。「五高生」にあぐらをかきことができなく、「誇りと自信」を裏打ちする義務、努力も忘れない諸君であってほしいと切に願います。と、同時に自己に「誇りと自信」を抱くことができない者ほど、不断の努力をする人でなければならないのであります。そして「あたりまえのことを一生懸命に取り組む」「凡事徹底」の精神を、今一度、噛みしめてください。

さらに「であることとすること」については大人にも言えることです。よき親であるためには、よき親であるための不断の努力が必要です。また、よき教師であるためには、自覚と責任をもって「よき教師になろうとする」努力を積み重ねねばならないことは当然です。

#### ○最後に

生徒諸君が、新しい年の始めにそれぞれの目標を立てることができるように願い、また、平成27年が諸君らにとって良い年であるように祈って、訓辞といたします。

## 2年生修学旅行（12月1日～5日）

12月1日（月）～5日（金）にかけて、2年生全クラスで東京への修学旅行を実施しました。大きな活動内容として、2日目「OB企業訪問&クラス別研修」（文系・6組）「筑波コース（理系）」「病院訪問コース（7組）」、3日目「班別自主研修」、4日目午前「上級学校訪問」、4日目午後「ディズニーランド見学」がありました。昨年の修学旅行からの変更点としては、①学年全員で行くこと、②2日目にクラス別の企画を入れたこと、③「卒業生体験談」を入れたことです。

2日目の研修で、生徒達はそれぞれのコースで自分自身の将来の職業選択につなげるために、今必要なことを実感してきたようです。事前の電話連絡、ホテルから訪問場所までの交通手段調査、各訪問場所の下調べなどの準備に時間をかけた成果がありました。

3日目「班別自主研修」では、各班で事前に立てた計画をもとに、丸1日東京の街を散策しました。「乗り換えを間違えた」、「班員とはぐれた」などの声を生徒から聞きましたが、そんな失敗も経験の一つです。班で協力して無事日程を消化し、思う存分堪能し、集合時間までには全班がホテルに着きました。夜は、修学旅行委員の企画「クイズビンゴゲーム」で大いに盛り上がりました。また3名の卒業生による体験談では、話の内容に大きな刺激をもらいました。

4日目午前「上級学校訪問」では、再び卒業生や学校職員の方に説明をしていただきました。自分の進路実現に向けて具体性が増し、これから学習に対する取り組みが変わるきっかけを掴んだようです。そして、4日目午後「ディズニーランド見学」では、各種施設を楽しみ、また日本一のテーマパークで働いている人たちの動きを観察しつつ、そのサービスも勉強したようでした。

修学旅行を通して、生徒が「安全に配慮する」「主体性をもって行動する」「自分の進路を考える」という3つの目的を達成したと思います。2年生全員で同じ経験を共有できたことは、学年の「和」を深める機会になったと思います。これからさらに進路実現に向け、みんなで歩みを進めていくことを期待しています。



ミズノ東京本社



学年研修

## 修学旅行 生徒感想

東京の店を色々まわってみて気づいたのは、お客さんへの対応の仕方がとても丁寧だったということでした。言葉遣いや笑顔がとても印象的でした。やはり、たくさんの人とコミュニケーションをとることができる東京なので、そういうコミュニケーション力が高いと思いました。

東京にもたくさん良い所はありましたが、自然の美しさや人とのつながりは、やはり五島の方が良いと気づきました。空気は澄んでいるし、近所とのつながりというのがあるのは素晴らしいことなんだと改めて感じることができました。一生で一度の高校の修学旅行でしたが、いろんなことを吸収して帰ってくることで、良い経験になりました。（1組女子）

地下鉄では、時間通りに電車が発着するところに感心しました。世界一素晴らしいと言われる日本の地下鉄の素晴らしさを身をもって感じる事ができました。特に印象に残っていることは、「ディズニーランド」です。ディズニーランドには、たくさんの外国人観光客がいましたが、スタッフは英語を話すことができるのはもちろんのこと、中国語までも使い分けて話していました。グローバル化社会で生きて行くには、やはり英語はとても大切なものだと感じました。

自分も、英語はもちろんのこと他の外国語も勉強して、ディズニーランドのような外国人が集まるようなところで働きたいと思いました。これから、しっかりと勉強して、もっとたくさんのことを学び、グローバル社会の中で生きていけるようになりたいです。（2組男子）

大学の先輩方の話を聞いて、自分ももっと頑張らなくてはならないなと感じました。先輩の1人が「今、スイッチが入っていないのは遅い」とおっしゃいました。自分は、まだ2年生で3年生になって勉強すれば良いだろうと考えていました。しかし、お話を聞くと今のうちからしっかりと目標を持ち、その目標に向かって努力していくことが大切なのだと思います。

自分は今、掃除も洗濯も料理もすべて親にやってもらっています。しかし、先輩方はそれらのことをすべて1人で言い、さらにアルバイトを夜遅くまで行い、学費や生活費にしており、目標に向かって大学での勉強に励んでいます。自分は家事を親にやってもらっているのに先輩方のように努力していないと思いました。目標に向かって日々努力していきたいです。（1組男子）

鶴巻温泉病院では、病院の雰囲気や患者様、看護師さんの明るさを感じ、看護部長さんの掲げる理想を皆で創っているところや患者様が病院や医療従事者に寄せる大きな信頼をみる事が出来ました。本当に素晴らしい病院でした。ここで働きたい、ここで入院したいと思える病院でした。また、新人教育も行われており、専門学校を卒業後は安心して働けるところだと思いました。また、新人を育てるだけでなく、新人を育てる先輩側の教育もされており、そういった面がとても良いと思いました。（7組女子）

## ゴルフ実習（10月～12月）3年スポーツコース

10月30日から全10回の予定で、五島カントリークラブ様のご協力を得て、ゴルフ実習を実施させていただいております。五島の大自然の中で、気持ちも体も解放しながら、基礎から丁寧に指導いただいております。最終実習のラウンド練習へ向けて、ゴルフのマナーやエチケットをしっかりと習得し、生涯スポーツの1つにすることができると思います。このゴルフ実習を充実した形で終了し、近い将来、このクラスでラウンドできれば幸せなことだと考えています。最後に、毎年、3年生の実習において、多大なるご協力を頂いている五島カントリークラブ様、及び、ご指導いただいている坪口様にお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。



## 衛生看護科1年生後期施設実習（12月1日～8日）



12月1日～8日に衛生看護科1年生の生徒は後期の施設実習を行いました。6日間の実習で直接、利用者様と関わり感じたこと、考えたことを忘れることなく今後の学習を深め、2年次の病院実習に活かして欲しいと思います。お世話になった施設関係者の皆様方、ありがとうございました。今後とも、ご指導よろしくお願いたします。

〈生徒感想〉 .....

今回の6日間の施設実習では、前期よりも多くの実習をさせていただきました。私は初めての長い実習に不安を抱えていました。初日の口腔ケアでは、利用者さんに2回も嘔吐させてしまいました。私は苦しそうな利用者さんをただ見ていることしかできず、自分が行った行為が利用者さんへ大きな影響を及ぼすことを痛感しました。私はそれから恐怖心もあり、なかなか自ら行動することができませんでした。その日の夜、私は考えました。私が失敗することで利用者さんを傷つけることがあるのなら、そうならないためにどうしたらよいのか指導者さんに質問し、実際に自分で行うことが大切なのではないかと気づきました。翌日から積極的に質問を行い、実習に真剣に取り組みました。今回の実習を通して、利用者さんの気持ちを考え相手の立場に立った行動や、声掛けを行うことの大切さを学ぶことができました。今回の実習で学んだことを、来年の病院実習で生かし、そして経験させて頂いたことに感謝し、理想の看護師になることができるよう頑張っていきたいと思います。

## 1年生芸術科発表会（12月19日）

12月19日（金）本校メモリアルホールにおいて、1年生の芸術科学習発表会を行いました。音楽選択者はクラス合唱や学年全体での合唱を披露しました。発表会までの準備期間は2学期期末考査を含む一ヶ月と短く、少ない授業数の中でどのクラスも大変苦労しながら練習に取り組みました。当日は、今まで練習したことを発揮し、クラス一丸となって堂々と発表を行うことができました。

芸術の授業は音楽と美術の2科目から選択するため、クラスによって男女の人数の差があり、合唱発表においては音量バランスを調整することが最も困難でした。しかし、歌詞の内容からクラスでイメージを共有し、表現を工夫することによって、音量バランスを克服することができました。音楽選択者は今回の芸術科学習発表会を通じて、自分の声と他人の声に関心を持ち、お互いの相違点を見つけ、より良い表現を追求していく姿勢を学びました。

美術選択者は『人物画』、『風景画』というテーマのもと、メモリアルホールの前で作品展示を行いました。3クラス合わせて24名という少数精鋭の作品、皆様、すべてご鑑賞いただけましたか？ 『人物画』の自画像デッサンでは、1枚目から2枚目の作品を通して生徒の成長が見られ、『風景画』では、水彩絵具で描かれた五島高校や五島の風景に、新たな魅力を感じられたのではないかと思います。

普段は交流のない音楽選択者と美術選択者ですが、今回の発表会で双方共に芸術的感性を磨き、今後の人生をより豊かなものにしてほしいと願っています。



**3学期に向けて～One for All, All for One～****第1学年主任 瀧上 透**

学校生活の1年間で最も忙しい2学期。文化祭・体育祭という大きな学校行事を経験し、1年生はわからないながらも一つひとつを必死に取り組みましたね。また先日行われた芸術科学習発表会も素晴らしいものでした。君たちの美術作品や歌声にとても感動し、心が温かい気持ちで満たされました。

1年生の学年スローガンは「One for All, All for One」です。この言葉は「一人はみんなのために、みんなは一人のために」と訳されます。しかしラグビーの元全日本監督、平尾誠二氏は後半の部分を「みんなは(ひとつの)勝利のために」と解釈されています。どんなに優秀な選手でも一人ではできないことには限界があるが、チームになれば1+1が3にも5にもなる。これがチームプレイの醍醐味だが、それには前提条件として「一人ひとりが『自立』した大人である」ことが必要である。つまり、一人ひとりがきちんと『勝利』に向かって自分の足で立っていること。チームの一員として他のメンバーに甘えたり、寄りかかったりしない、大人の集団であることが必須なのだそうです。

3学期に向けて1年生に望むことは、自分のやるべきことを責任をもってできる人になること、つまり「高校生として自立して欲しい」ということです。誰にだって至らない部分はあります。私自身いつも反省の日々です。しかし、いつも助けてもらってばかりではいつまでも自立なんてできません。自分自身の成長は集団としての成長につながり、学年に大きな相乗効果を生むでしょう。「One for All, All for One」の完成形を目指し、1年生職員・生徒全員で成長していこう！

**「生きるおもしろさ」****第2学年主任 久保田 幸成**

12月、衛生看護科の授業で「生物と無生物のあいだ」というエッセイを読んだ。生物学者である福岡伸一氏が現職に就いているのは、子どもの頃の2つの経験がベースになっていると語る。一つは「蝶のサナギを集めてカゴに入れ、羽化していることを忘れず死なせてしまった経験」、二つは「中身見たさにトカゲの卵に穴を空け、腐らせてしまった経験」だ。これらを人間の手による「操作的介入」と述べている。生徒はこれを読み、感想文を書いた。自分たちもこれから看護師となり、「操作的介入」なるものを行おうとしているのではないかという危惧を書いたものが多かった。「クローン技術」「不妊治療」「臓器移植」など様々な用語が飛び交い、医療技術の進歩・発展はもちろん素晴らしいことだが、もっと大切なものや我々人間が操作・介入できないものがあるのではないかなどに気付く者もいた。

「自分の思い通りにしたい」という思いは、現代思想の特徴であり、もちろん生きる原動力にもなる。しかしそれがすべてではなく、ある地点では限界が存在するのではないか。先日ある映画を鑑賞した。そこには夢を持った飛行機的设计士がおり、自分が手がけた飛行機が、戦争に使われる苦悩が描いてあった。我々はよく生徒に「夢を持ちなさい」「目標を達成しなさい」という言葉をかける。しかし本気で突き詰めていけば、壁にぶち当たり、熟考を迫られること、それがすべてではないことも知っておかねばならない。

我々は生きていく中で、いろんな発見や気付きがある。時には壁があり立ち止まり、修正を迫られたりもする。全く思い通りにはいかない。だから人生は面白い。生徒は2学期、文化祭や体育祭、また修学旅行などの学校行事、学習部活動を通していろいろなことを学んだであろう。3学期はどんな発見をしてくれるだろうか。

**「峠の向こうに春がある」****第3学年主任 宗田 将平**

センター試験まで1ヶ月を切り、また、衛生看護科の准看資格試験まで50日余りとなりました。さらには、入試・資格試験も本格化し学年全体にピリピリとしたものを感じています。三者面談が終わり、いよいよ厳しい現実と向き合わざるを得なくなりましたが、希望をもって毎日を過ごしてください。

さて、この1年を山に例えると、現在はどのあたりになるのでしょうか？峠に近づいてきているのですが、かなりの急勾配でみなさんが苦勞しているのではないのでしょうか？実は、これは私たち教員団も同じ。君たちを合格に導けるか、相当なプレッシャーがあります。しかし、悩んでいても解決しませんから、我々教員団は、手と手をとりあって山頂をめざしているところです。生徒の皆さんはどうですか？歩みを止めていませんか？どうか我々の背中を見失わずについて来てください。どんなにきつくても、前に進んでください。受験は自分自身の弱さと対峙する良い機会です。これに打ち克って、自信をつけて春を迎えましょう。

3学年のスローガンは「峠の向こうに春がある」ですね。さて、春を勝ち取るために、残りの期間をどう過ごしますか？以下に、春を勝ち取るための「すべき事」を記します。

まずは、基本的な生活習慣を維持することです。起床・就寝・学習時刻をいつもと同じように設定してください。大晦日に「絶対に笑ってはいけない大脱獄24時」なんか見ていたら、言うまでもないですが、センター試験は本当に笑えない結果になります。元旦は、7時からEarly Birds（英語科の講座名で年末年始も早朝7時から開講です）なので、そんなもん見ている暇はありませんよね。

次に、学校に出てきて勉強をすることです。年末年始はEarly Birdsをはじめ、たくさんの講座が開かれます。それを全部受講してください。朝から夕方まで学校で勉強する者は、合格の可能性が大きくなるでしょう。

最低でも、この二つは貫徹してください。春を勝ち取るための最低条件です。君たちの春は間近です。最後に歯を食いしばって、一緒に峠をめざしましょう！！未来の自分が悲しまないように粘ってください。

保護者の皆様、今年も学校生活の様々な面で、ご協力いただきありがとうございます。生徒達は今、自分の目標を達成するため、保護者の皆様の期待に応えるため必死で頑張っています。その頑張りを少しでもバックアップできるよう、学校では年末年始も学校を開放します。我々教員団も本気で指導に当たります。生徒たちが素敵な春を迎えられるように、そして最後に笑って五島高校を旅立てるように、今後ともご支援をよろしく願いいたします。

**☆年末年始も五島高校は年中無休☆（7:00解錠、18:15施錠です）**